

取組みを進める地域課題とグループワークの概要

■地域課題の選定（市と地域包括支援センターで協議）

市と地域包括支援センターで個別ケア会議の結果等を基に協議した結果、以下の課題を取り上げることとする。課題の抽出元となった個別ケア会議の概要は別紙参照。

支援を必要とする高齢者・リスクが高い高齢者を早期に 発見する仕組みづくり

■現状の取組み

- ・町会自治会、民生児童委員、老人クラブ、シルバー人材センター、はとの会（電話訪問を行うボランティア）、こまほっとシルバー相談室等（都営住宅）による見守り。
- ・電力、ガス、水道等のインフラ業者や、宅配業者、コンビニエンスストア、銀行等との間で、業者が日常業務の中で高齢者に係る異変を感じた場合に、市役所等に連絡する旨の協定を締結。現在 16 か所。
- ・町会自治会等の地域組織に対する地域包括支援センター等の周知。

■ 取組みの大筋

多様な主体が高齢者に係る異変・リスク高に気づき、市役所や地域包括支援センターに連絡することで、早期の関わり、支援を図る。

■アイデアをいただきたいところ（グループワーク）

まずは、みなさんが所属する機関・団体で行っている見守り活動、感じているところを教えてください。

そのうえで、以下の事項についてアイデアをいただきますようお願いします。

【行政以外の主体が行えること】

- どのような主体が、早期に異変・リスク高に気づくことができるか？
（地域住民？医師？民間企業？町会？インフラ業者？学生・子ども？）
- どのような状況を異変・リスク高とみなすか？
（連絡がとれない？コミュニケーションが困難？料金滞納？受診停滞？制度未利用？）
- 取組みを進めるにあたって気をつけるべきこと、仕組みを形骸化させないための工夫等
- みなさんが所属する機関・団体で協力できること

【行政が行えること】

- 異変・リスク高の高齢者を把握する際に活用できる情報（所得情報？医療・介護情報？）